検討資料

To be your help DAISUKE KISHI

岸 大介 活動報告

With You ウィズユー

Vol.5 2020. 秋・冬

目黒区議会議員 無所属

岸 大介

区民をないがしろにする“無責任”と闘う！ 目黒区出身の47歳

区民をないがしろにする
“無責任”と闘う！

目黒区議会議員
無所属

岸 大介

岸 大介 プロフィール

1973年	目黒区生まれ
1986年	トキワ松学園小学校 卒業
1998年	東北芸術工科大学 デザイン工学部 卒業
2003年	NY市立大学ハンター校 経済学部 卒業
2005年	コロンビア大学 SIPA国際・行政学大学院 卒業 行政学修士
2007年	会社員、政党職員（本部国際局・都議会政策調査会等）を経て
2017年	衆議院議員（元復興副大臣、元文部科学大臣）政策担当秘書
2018年	目黒に帰郷、政治活動を始める
2019年	目黒区議会議員 初当選 （令和２年度現在 生活福祉委員会　総合戦略・感染症対策等調査 特別委員会 所属）

その他

目黒消防団所属（特殊技能団員）、防災語学ボランティア

自己紹介・好み

家族：妻、犬、ネコ
趣味：社交ダンス、Jazz鑑賞、Perfume、四国遍路
好きな食べ物：蕎麦、牡蠣、イチジク、純米酒
好きな歴史上の人物：仁科盛信（武田勝頼公 実弟）、
河井継之助（長岡藩家老）
好きな言葉：「明日、世界が滅びるとしても
今日、君はリンゴの木を植える」（開高健 著作物より引用）

連絡先：岸 大介
住　所：〒152-0033　目黒区大岡山1-13-10-1F
ＴＥＬ：090-3360-3286　　ＦＡＸ：3724-1941
Email：info@kishidaisuke.com

私の考えに、お力をお貸しください！
貴方様からのご献金をお待ち申し上げます。（1口/3000円より）

振込先
郵便振替　00120-6-487566
みずほ銀行　大岡山支店　普通　2339974

ご挨拶

平素は岸大介の議会活動にご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。おかげ様をもちまして議会活動2年目を迎えております。気がついたら初年度が終わり、コロナ禍が始まっていた。感慨深く思う間もなく、日々の業務に追われております。

もとい、僅か1年前に誰が今般の世界事情を想像できたでしょうか?全ての人々や家庭、会社や組織が手探りで最善を模索する。最悪を回避する。常々修正を重ねる。それは議会や行政の現場でも、まったく例外ではありません。大変な時代に、〝我々全てが〟直面していると思います。たとえそれが、人間の「業の深さ」故のものであるとしても、必ずや英知と意思によって克服できるものと信じて疑いません。

本日リーフレットをお届け致しまして、最近の活動報告の一端とさせて頂ければ幸いです。

貴方様のご多幸を祈念致しております。

令和二年 秋冬 吉日

目黒区議会議員

岸 大介

http://kishidaisuke.com

http://kishidaisuke.com

3つの基本姿勢　子供世代にツケを残さない！　スジを通す！　フェアな世をつくる！

議会活動トピック

●令和３年度 目黒区本予算 要望書を区長に提出しました

区への予算要望事項

1. PCR検査体制の強化、体制整備に要する予算拡充
2. 新型コロナウィルス検出キットの確保に要する予算拡充
3. 新型コロナウィルス対応医療施設への減収補填と経営悪化回避支援の為の予算拡充
4. 町会・自治会の管理する、防犯カメラの維持管理助成への予算拡充
5. 歩行者や電動カート利用者に配慮した、優先経路の安全性向上とバリアフリー化予算拡充
6. 虐待等による、社会的弱者を守る為の一時避難所運営の為の予算拡充
7. 犬猫の殺処分ゼロに向けた取り組み、及び地域猫の保護、不妊手術・去勢手術への助成の為の予算拡充
8. プラスチックごみ対策・海洋汚染対策への予算拡充、更なるリサイクルを推進させる為の予算拡充
9. 緊急行政情報のリアルタイム伝達の為のSNS活用の為の予算拡充
10. 自主避難所への防災機材拡充の為の予算拡充
11. 区有施設全域のフリーwifi設置の為の予算拡充

来年度へ向けての予算を区長、新副区長に要望しました！

●令和２年 決算特別委員会にて「総括質問」を行いました　〈裏面に関連記事〉

総括質問直前！緊張感解けぬ休憩時間

Youtube 岸大介チャンネルにて
総括質問の動画を公開しておりますので
ご覧ください

●令和２年第３回定例会にて令和元年度 本区決算認定への「賛成討論」及び、「オンライン本会議の実現に必要となる地方自治法の改正を求める意見書」へ「反対討論」を行いました　〈関連写真〉

オンライン議会の是非に対して１人「反対」しました。

Youtube 岸大介
チャンネルにて
令和２年第３回定
例会の動画を公開
しておりますので
ご覧ください

●活動報告 ～危険物取扱（乙４）資格と大型・大型特殊免許取得～

消防試験研究センターにて危険物乙４を受ける。

自粛期間中に“危険物取扱い”の勉強をした事をきっかけに、大型自動車・大型特殊免許を取得した。全く別分野であるものの、組み合わせれば災害時にはタンクローリーでガソリンが運べ、復興時には作業系重機を扱えるとのこと、この夏の最重要テーマとして取り組んだ。ペーパードライバーであり続けたいと、冷静に思う。

災害に備える為の予算付けが毎年行われているが、どれ程の大型の予算を組んだ所で、人間の考える備えが自然災害に対して、時に無力である事は言うに及ばない。そもそも何故ここまで頻繁に災害が起こる様になってきたのだろうか。気候変動の影響を事実として受け入れ、昨今の「新しい生活様式」に馴染まねばならないのは責務であるとして、今の我々の生き方の選択が、未来の区民（子供達世代）が生きる環境を左右してしまいかねないのが現実なのである。「不都合な真実」を現実にしてはならない！

大型特殊自動車運転の教習中
表紙：11メートル大型１種自動車の教習中

WEB・SNSでも活動を発信しております

Web　Facebook　Instagram　Youtube

第3回定例会　決算特別委員会 総括質問 （要約）

1-1 【新型コロナ関連】

Covid-19新型コロナウィルスに関わる本区「行動計画」への評価と、社会分断についての認識・施策について質問致します。国や社会に対する影響は今般の状況となり、特に経済への影響という点では、緊急事態宣言で経済を止めた影響も含めても穏やかではありません。

以来本区では平成26年に策定されました「目黒区新型インフルエンザ対策行動計画」に則って数々の施策が為されて参りましたが、先ずはこの「行動計画」推進への本区の認識、評価を伺います。特に「対策の目的」には、①感染拡大を可能な限り抑制し、区民の生命及び健康を保護する。 ②区民生活及び社会活動に及ぼす影響が最小となるようにする。とありますが、対策はどれ程に効果があったと考えているのか？

他方、情報発信という事でいえば、あまりにも多くの論点がありましたが、区民の声として特に印象的であったのは、「なぜ目黒で対策はできないの？」とか、「目黒はPCR検査やらないのか！？」とか、「なぜお隣みたいに10万を配らないの？」等の、本区の施策に対する様々な解釈の蔓延でありました。勿論、それら諸課題に対する施策に尽力しているものの、なかなかそれが伝わり切らない、理解してもらえない。初動を含めた他区との比較の中で、行政が止まってしまっているかの様な印象さえ与えていた。その点を含めての総括を伺います。

1-2 （再質問）～コロナによる社会分断～

新規感染者数が毎日報道され、感染された人やそのご家族、関連施設に対しては、心ない差別や偏見が各地で確認されております。本区では人権の配慮として、8月11日付で「正しい情報に基づく冷静な対処を行う様」という事で通達がなされましたが、人権侵害に関わる事象を深刻なものはどの様に、どれ程に把握されておりますか？コロナは都会の病気であるとの行き過ぎた偏見、社会の分断に関してどの様に捉えているのか？伺います。

1-3 （再々質問）～コロナ情報の公表は安心と自衛にもつながる～

緊急事態宣言が解除された直後ですが、私自身も地方都市で差別を受ける事象に直面しました。せっかく外仕事が終わって汗と泥まみれなのに、「老人が多い風呂屋ですから、関東からのお客さんはお断りしています。」と街の銭湯の敷居を跨げない。東京に象徴される大都市がバイ菌の巣窟で、コロナが街からやってくるという偏見が地方には広がっている。医療従事者とその家族に対する偏見がニュースになったことも記憶に新しい所です。

私はこの様な社会分断や行き過ぎた自粛から区民を守る為にも、正しい情報を適切なタイミングで区民に対して情報提供をするという事が何よりも大切であると思います。その為にも、少なくとも本区内にあるコロナ対応の医療機関名、現状における罹患者数、属性、病状の進行度合い、罹患ルート等、生きたデータを適切に公表する事で、状況把握と安心、被差別からの自主防衛の為の根拠と繫げられると思いますが、如何か？

⇒危機管理室長：早々に、新型インフルエンザ対策行動計画にのっとった対応を始めた。コロナに対しても有効と考えている。国、都と連携体制を続ける。

企画経営部長：情報発信の弱さへの指摘に関しては真摯に受け止め、これからの工夫と努力に繋げたい。総務部長：社会の分断、差別を許さない姿勢を社会全体で示して毅然と対応する事が重要。恐れるべきは人でなくウイルス、闘う相手も人でなく感染症である。健康推進部長；医療機関名の公表については社会の受け止めもあるが、国からも方針を示されている以上、慎重にせざるを得ない。

2 【決算と財政計画】

成熟社会の特徴である少子高齢化と低成長は、歳出の増加と歳入の減少をもたらします。本区は地方交付税の不交付団体であるので、地方税収入の増減が財政運営に及ぼす影響が大きく、常に景気に左右されやすい。その様な現実の中、令和元年度までは税収が増え続けているという、大変恵まれた状況が続いておりました。基準財政需要額及び基準財政収入額の両上昇トレンドは、前々から「懸念している」との区長答弁も過去にはありましたが、「歳出の徹底した見直し」という点ではどれ程迄に努められているのかは、読みきれるものではありません。晴れてこの4月には待機児童ゼロ政策を達成した反面、歳入と歳出のバランスがあって初めて行財政計画というモノは運営されなければなりません。広げすぎても絞りすぎても、遅かれ早かれ行政サービスの低下に繋がります。歳入歳出のメリハリ、バランスに関してはどの様に、そしてどれ程真剣にとらえて来たのでしょうか？

次に、国へ提出している「財政状況資料集」を見ますと、特に人件費に関わる分析には「引き続き職員定数の適正化に取り組んでゆきます。」との記載が多用されています。行政サービスへのニーズが変化する中、この仰っている、“最適な数の職員定数”とは、どれ位の事と想定されているのでしょうか？

関連して、「目黒の給与・定員管理について」という書類の「年齢別職員構成の状況」を見ますと、令和元年と平成26年が比較されており、どちらの時代も高齢のグループが若齢のグループを大きく上回っている。そもそも職員の採用は、年度毎にほぼ同数を迎え入れる事が定石である一方、このままですとあと数年で職員が減りすぎてしまいます。人件費に関わる本区の、類似団体比のコスト高傾向というのは、人員を少なくすれば状況が改善されるというモノでもない。つまり「50歳以上の職員構成が人件費の負担に大きな影響を与えている」との現実がある中での本区の解釈、このジレンマへの脱却、これまでとこれからの採用方針について伺います。

⇒区長答弁：歳入の範囲の中で歳出をするという事が原理原則である一方で、要緊急対応の案件に対しては、その為のモノとして基金を積んでいる。今年はコロナ対応の為の補正2号で182億、補正3号で209億を取り崩している状況である。基準財政需要額の上昇については、常に新しい取り組みへのビルドに備えて、スクラップもしてゆく。そこで生じた活用可能な財源を活用、積み立てるという運営をしている。経常的経費充当一般財源で大きいのは、扶助費肥大である一方で、歳入の伸びは今般の税収増を背景にしているのが事実。

企画経営部長：定数目標は達成している。長年の人事運営の結果、今の5,60代が多いのは区政業務拡大期であったこと。3,40代が少ないのはバブル崩壊後に採用抑制をした時代であった。行政運営自体を変えてゆく大きな過渡期である事も自覚している。

3-1 【2020東京五輪・パラリンピック関連】

オリパラ関連に関しては、毎年予算計上なされている訳ですが。当初の構想では選手ファーストですとか、コンパクト五輪であるとか、復興五輪であるとか、時世に合った気分醸成をして参りました。しかしながら2019年12月、会計検査院は今般のオリパラ関連支出が2018年度までの6年間に約1兆600億円に上り、組織委員会と都が公表している経費と合算すると、支出総額は約3兆円を超えるとの、調査報告書をまとめています。

その様な中ではありますが、本区は都や組織委員会に全面的に協力してきました。聖火リレー、ＰＲイベント等、多くのボランティアの方々にも協力をお願いしてきました。テコンドーの公式練習会場という事では、中央体育館を大改修して提供している状況です。本区がこれまでかけてきた関連費用は、総額では幾らに上るのか？このまま2021年のオリパラに繋げてゆくのであれば、その負担の主体である区民に対してはどの様な説明をなさるのか？伺います。

3-2 （再質問）～旗振り役としての本区の認識～

招致活動の時からペーパーカンパニーへの裏金やら、神宮外苑のメインスタジアム建設の時も釈然としない印象が残りました。エンブレムの盗作もありました。本大会のボランティア運営も、相当にずさんな計画であったとの事、内実が見えて参りました。来年もまた「晴れる日が多く温暖でアスリートに最適な気候」と、世界に向けては発信し続けるのでしょうか…？オリンピック利権ですとか、スポンサーファーストですとか“闇”をこの場で言う事はありませんが、コロナによる死者数が全世界で93万人（9月15日現在）を超えている。実は選手選考さえ行える状況になく、平和の祭典どころの話ではない。そろそろ区民感覚というか、世界の標準的な感覚を反映した現実的な意見も、都や組織委員会には意見具申しても良いのではないでしょうか？今の何が何でもやる的な、一部の方達の熱望を、区民一般の方が実は冷静に、むしろ生温かく見守っている。予算をつぎ込んできたとはいえ、このコロナ禍に旗振りを継続するという事に対しての、本区の認識を伺います。

最後に、オリパラへの予算の原資は税金である以上、十分な説明に加えて、区民の理解と支持が醸成されなければなりません。この先IOCの他、上部機関でどの様な判断が為されようとも、関連経費の透明性の徹底、記録を残すという事はちゃんとやって頂き、少なくとも本区の中でのレガシーという意味では、公明正大に残してほしいと思います。

⇒文化スポーツ部長：今後の感染状況や都及び組織委員会の動向を踏まえて、来年度の予算は検討中。本来、2020大会が開催される予定であった本区の、施設改修等を除いた純粋消費予算は1億3775万余ですが、既に減額補正をしている。来年度の予算もこの額をベースに、区においても費用の最小化含め、理解が得られる様に努めたい。

区長：公金を大事に使ってゆく事、記録を残す事、公明正大にということは、委員の仰る通りである。